2023 年度 特別区Ⅰ類本試験（教養試験）　講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率※
1	文章理解（現代文）	要旨把握	5	A
2		要旨把握	2	A
3		要旨把握	1	A
4		文章整序	4	A
5		空欄補充	1	C
6	文章理解（英文）	内容把握	1	B
7		内容把握	3	A
8		空欄補充	4	B
9		ことわざ・慣用句	5	B
10	判断推理／数的推理	試合	5	A
11		暗号	2	B
12		対応関係	4	A
13		順序関係	5	B
14		位置関係	1	B
15		集合算	4	A
16		平面図形の計量	4	B
17		最小公倍数	3	A
18		速さ	2	A
19		確率	4	A
20		比・割合	4	B
21	資料解釈	表（実数）	3	A
22		表（増減率）	5	A
23		グラフ（実数）	3	A
24		グラフ（実数・構成比）	4	B
25	空間把握	位相	4	B
26		平面図形の分割・構成	1	A
27		立体の切断	2	B
28		軌跡	5	C
29	社会科学	労働者の権利の保障	2	C
30		我が国の地方自治	5	B
31		東西冷戦	5	B
32		我が国の農業と食料問題	3	A
33	人文科学	中国思想	3	C
34		国風文化	1	C
35		イギリス産業革命	4	B
36		ラテンアメリカ諸国	5	B
37	社会事情	イギリスの首相	2	C
38		第 26 回参議院議員通常選挙	3	B
39		経済安全保障法	5	C
40		文化勲章受章者及び文化功労者	3	C
41	自然科学	反発係数	2	C
42		電圧計の倍率器	1	C
43		周期表と元素	5	B
44		炎色反応	2	A
45		ハーディ・ワインベルグの法則	3	B
46		ヒトの脳	1	B
47		太陽系の惑星	1	B
48		地層	1	C

講評

【文章理解】　**現代文**：例年通り、主旨把握３題、文章整序１題、空欄補充１題の計５題の出題であった。特別区の主旨把握は３題中１題に正答を確定しにくい出題が含まれることが多いが、本年は難易度に大きな差はなかった。空欄問題の中にある空欄の数は、昨年が２つだったのに対して今年は３つであった。空欄Cは絞込みが容易ではなく、実質的には空欄ＡとＢの２つで正解できるかという問題であったが、本文に解答根拠を求めることが難しく、難易度が高かった。

英文：近年は内容把握２題、空欄補充１題、文章整序１題であったが、今年は文章整序がなくなり、代わりにことわざ、慣用句が出題された。知識があれば時間をかけることなく正解できる問題である。ただし、知識がなくとも、Ａのwolf と sheep が捕食者と被捕食者の関係であることから、犬猿の仲とは別種の関係であることと、Ｂの「吠える犬は噛みつかぬ」という表現がＤの英文そのままになっていることから、Ａ、Ｂ、Ｄの３つが不適切であると類推できれば、解ける問題であった。

【判断推理】　今年の判断推理の問題数はNo. 10 からNo. 14 の計５題で、難易度は昨年と同じく標準的であった。No. 11 の暗号は規則性を発見することが難しい内容であった。No. 10 と No. 12 は平易な問題であった。No. 13 の順序関係の問題は、条件からＢとＤの順位を考えていくことがポイントであった。No. 14 の位置関係の問題は、「向く方向」という参考書などで見慣れない用語が出たこと、すべての条件を満たす配置が複数通りあることから、少し難しかった印象を受けた。戸惑った受験者もいたことであろう。この場合は、条件をまとめて出来上がった配置の一例を考えて、選択肢を絞っていくのが有効な解法である。

【数的推理】　今年の数的推理の問題数はNo. 15 からNo. 20 の計６題で、難易度は平易であった。No. 16 については、△ＡＤＥ＋△ＢＣＥと△ＡＢＥ＋△ＣＤＥの面積は、四角形ＡＢＣＤの半分であること、No. 18 についてはＢＣ間の長さが三平方の定理から直線距離で$\sqrt{9^2+12^2}$ ＝15km であることが分かれば得点できる問題であった。No. 19 については、過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」の問題 168 に類題があったので、対策をしていた人は点数を取ることができたであろう。No. 20 は、2019 年も類題が出題されており、過去問解きまくり①問題 38 にあったことから、解くことができた人が多かったと思われる。

【資料解釈】　今年の資料解釈の問題数は昨年同様４題で、難易度は昨年より易化して取り組みやすかった印象を受ける。No. 24 以外は、数値の桁数も少なく、計算も扱いやすいものが正解の肢となっていた。No. 21 の選択肢は２つの分数の値の大小比較であったが、分母と分子の値だけで決めることができた。No. 22 は正解の肢を見つけるための選択肢の検討順も順番が前の方だったので、計算も楽であった。No. 23 も資料の数値の桁数が少なく、計算がしやすかった。No. 24 については、桁数も多く、正解の肢を見つけるための選択肢の検討順も順番が後の方の選択肢が正解であったため、消去法で時間をかければ解くことができたと思われる。

【空間把握】　今年の空間把握の問題数は昨年同様４題で、難易度は標準的であった。過去問解きまくり②「判断推理・図形」にも多数の類題があり、受験者にとって解きやすかった印象を受ける。No. 27 の問題について、Ｃ、Ｆ、Ｐを通る平面で切断したときにできた切断面は、長さ$4\sqrt{2}$cm の正三角形である。No. 28 については、４回目と５回目の回転による軌跡をきちんと描けるかがポイントであった。過去問解きまくり②「判断推理・図形」の問題 152 に類題があったので、対策をきちんと行った受験者は解けたであろう。

【社会科学】　法学からは労働者の権利保障、政治からは地方自治、東西冷戦の２問、経済から農業と食料問題が出題され、例年どおり４問である。労働者の権利保障、地方自治の２問については、社会科学の出題としてはオーソドックスな問題なので是非正解しておきたい。東西冷戦については、社会科学だけでなく、世界史の知識でも解ける基本的な知識を問うものである。農業と食糧問題については、経済としてはあまり馴染みがないかもしれないが、時事の知識や一般常識の範囲で選択肢が絞り込める問題である。いずれも基本レベルから標準レベルの問題なので、４問中３問は正解しておきたい。

【人文科学】　思想、日本史、世界史、地理からそれぞれ１問の出題であり、構成は例年通りである。思想の問題も、昨年と同様に、オーソドックスな「倫理」からの出題となり、過去問をやっていれば正答できる平易な問題であった。例年と同様、日本史と世界史は細かい出題であったが、日本史については仮名の使用の部分に飛びついてしまった人が多かったが、国風文化を広くとらえて判断できたか、というところであった。世界史については、基本事項が正解肢であることの見極めがポイントであった。例年、人文科学の中では地理が一番簡単だが、今年は世界史の正答率が高かった。地理は一番選択率が高かったが、若干、肢２を選択した人が多かった。この選択肢は 2020 年の東京都の過去問と同一の選択肢の切らせ方であり、「解きまくり」をやっていた人は正答できたと思われる。

【社会事情】　社会事情からは例年どおり４問の出題で、イギリスの首相、第 26 回参議院議員通常選挙、経済安全保障法文化勲章受章者及び文化功労者である。これらのうち、イギリスの首相、第 26 回参議院通常選挙は、時事としては頻出テーマなので是非得点源としておきたい。経済安全保障法は、新法・改正法が出題しやすいという傾向から準備ができていた者にとっては、平易な問題だったといえる。文化勲章受章者及び文化功労者は、題材としてはが珍しいが、日頃から社会の動向に注意をしていれば平易な問題といえる。いずれの問題も基本レベルから標準レベルの問題なので、４問中３問は正解しておきたい。

【自然科学】　2021 年は、全体的に盲点事項を問う問題が多く、高等学校の理系で学ぶ知識まで学習をしていない受験生にとっては、知らない知識が問われる問題が多かったが、今年度は、2022 年に引き続き、一部を除き、従来のレベルで、典型的なテーマからの出題であった。

物理：昨年は、2015 年以来の正誤を問う問題も見られたが、本年度は、２問とも計算問題に戻った。No. 41 の反発係数の計算問題は、斜めの角度からの衝突であり、2009 年、2006 年、2003 年とは出題形式が異なっていたから、取り組みにくかっただろう。No. 42 の電圧計の倍率器は、2017 年も出題されたが、理系でないと学習していない内容であり、他の試験種ではほぼ出題がない内容であった。

化学：No. 43 の周期表と元素は、高等学校の化学基礎の最初に学ぶ基本的な知識が問われ、No. 44 の炎色反応は、紛らわしい選択肢がなかったため、２問とも確実に押さえておきたい。

生物：No. 45 のハーディ・ワインベルグの法則は、生物の教科書の最後の方で学ぶ内容であり、知らない受験生がほとんどであったと思われる。No. 46 のヒトの脳は、2015 年、2007 年に類似の出題があり、頻出単元であるから、過去問演習の重要性を再認識したい。

地学：No. 47 は太陽系の惑星は、2019 年、2015 年にも出題された頻出単元であるが、「妥当でない」選択肢を探す形式であった。なお、15 年連続で宇宙分野からの出題が続いている。No. 48 の地層は、特別区では初めての出題であるが、背斜と向斜の違いを確実に理解できていないと、空欄ＡとＢで迷ったと思われる。

※　正答率（Ａ：60%以上、Ｂ：40%以上 60%未満、Ｃ：40%未満）は、ＬＥＣ公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（ 5/11 14:00 時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、ＬＥＣ公務員 Web サイトの専用ページ（https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/）にてご案内しています。

0 001112 227194
KL22719

LEC東京リーガルマインド　公務員試験対策　複写・頒布を禁じます